

2026 年熊本地震 現地視察・ボランティア報告

日程：2026 年 8 月 23 日（日）～28 日（金）

現地活動：8 月 24 日（月）～26 日（水）

活動地域：熊本県宇城市・氷川町・八代市

同行者：部長 大塚史明／部員 高橋拓男・石川新

活動のいきさつ

災害対策部の祈りのネットワークの課題の一つ「緊急災害発生時の情報共有と支援活動を迅速に開始する」という祈りが応えられ、広域災害対策本部は、発災の翌日 7 月 29 日大塚部長を派遣しました。そして上記の日程で、災害対策部員を 3 名派遣しました。被災地域を訪問し、被災された方々への物資支援、災害ごみの搬出・運搬、地域の状況把握、教会・地域住民との交わりを行った。九キ災（九州キリスト災害支援）の拠点教会等と連携し、高校生・大学生を含むメンバーとともに現地作業に参加しました。

活動記録

8 月 24 日（月）宇城市・氷川町

発災後に大塚部長が訪問した方々を再訪問し、水・レトルト食品を届け、被災後の状況を伺い祈りの時を持った。氷川町では屋根瓦の撤去と災害ごみの袋詰め作業を実施。このお宅の訪問は計 3 回。お手伝いのたびに片付けが進展するとともに、互いの関係が深まっている。屋根上は 40 度をはるかに超える状況だが守られたことも感謝である。



被災された方を訪問

8 月 25 日（火）八代市

能登ヘルプから派遣のスティーブン兄をリーダーとし、九キ災ボランティア計 9 名で活動。活動前に、前日のお宅に伺い災害ごみを回収することができた。八代市内のクリスチャン被災宅でも災害ごみの収集と搬出をし、八代港の仮置き場へと運搬・分別した。信徒宅では、食事と茶菓がふるまわれ、証しを通した交わり、祈りの時も与えられた。



八代の姉妹宅で作業と交わり

8 月 26 日（水）氷川町・宇城市

本日の活動前に、氷川町野津地区にある立石公民館を訪問した。断水が続く地域においてとにかく野菜を含む栄養ある温かな食事支援、炊き出しを望むとのことの要望を伺った。地区長と連絡先を交換し、9 月の実現に向けて備えることとした。また、九キ災ボランティアを含む計 7 名で宇城市にある「街なか図書館」で本棚等の解体・撤去を行い、災害ごみを仮置き場へ運搬した。



街なか図書館での活動

活動を通して得た気づき・今後の支援

- 被災者・地域との関係づくり：物資や作業の支援だけでなく、状況を伺い、食事を共にし、祈りをもって交わりを深めることの大切さを実感した。
- 地域の格差：復旧状況や生活上の必要は地域ごとに異なり、現場の声を聞きつつ支援内容を考える。
- 若い世代の参加：高校生・大学生の参加は大きな励みであり、教団からの派遣・金銭的支援を含め、災害支援を実践的な「主のしもべ」としての訓練の場とすることが期待される。
- 今後の具体的支援：立石公民館で確認した野菜不足など、物資支援だけでは満たしにくいニーズに答え、炊き出し等を検討する。既に九キ災でも炊き出しの働き等を実施している。

あなたも参加してみませんか！！

9 月から 1 か月間、大塚部長を被災地に派遣することになりました。この機会に、共に仕え、働き、交わりを深めてみませんか。教団では、参加する方をサポートし、祈りと支援をもって送り出していきます。参加、問い合わせ：教団災害対策部ホームページにアクセスしてください。

熊本地震支援活動報告
8月23日（月）～25日（水）

災害対策部 高橋拓男
（会津聖書教会牧師）

日本同盟基督教団の皆様のご支援とお祈りに支えられて、熊本震災の支援活動に行って参りました。心から感謝を申し上げます。

今回熊本支援の話が決まった時に、私が自覚していたミッションは「大塚史明先生を支える」ことでした。震災直後から熊本に入り、現状を調査し、被災された方とコンタクトをとっていた大塚先生のご労を少しでも軽減することが肝要かと考えていました。

実際には22日（日）の礼拝後、福岡めぐみ教会に一時泊らせていただき、福岡から熊本に入った3日間も全て大塚先生が車を運転するなど、大塚先生に依存する割合が大きかったのですが・・・。

今回の活動内容に関しては、同行した石川先生の報告に記録されている通りで、「被災したお宅の屋根瓦の片付け」「被災したお宅の家具、書籍等の廃棄」「避難所になった公民館訪問・聞き取り」の三点に集約されます。被災ゴミの片付けのニーズはまだまだ高いように感じました（特に高齢者の方）。

現在の状況はまだ「復興・復旧に向けた初期段階」であり、これからまだまだ多様なニーズが出てくることが想定されます。

そして支援する側の事情として大きいのは、10年前の熊本地震以来、支援活動の中心を担っていた「九州キリスト災害センター（九キ災）」の働きが9月いっぱい解散することです。それに伴い、現地ボランティアのワークリーダーを担うことのできる大塚先生に対する期待や負担は相対的に大きくなっていくことと思います。

これからの方向性としては、その大塚先生を如何に支えていくか、その働きの負担を軽減していくのが大切なポイントかと思っています。

今回私が福島県会津若松市から熊本へ向かう際「先生、これで美味しいもの食べて頑張ってきて」と財布にあるお金をそのまま渡して下さる方、「（会津と違って）九州は暑いから」と心配して下さる方がおり、そこから大きな励ましを受けて熊本へ向かうことが出来ました。

同じように教団の皆様の思いを、大塚先生並びに光の森聖書教会の妻先生ご夫妻を支えることに注力していくことが、熊本の被災者の皆様に届く最善の道になるかと思っています。

今回、東日本大震災以降、岩手県の支援活動の中心メンバーだった大塚先生、能登支援に何度も行かれている石川先生のお姿から多くのものを学びました。そして3人の気さくな交わりの延長線上で、被災者の方々と関わる事が出来たことも幸いでした。（なお9月にも災害対策部のメンバーが熊本入りしますので、その働きのためにもお祈りください。



氷川町のお宅での支援の様子